

兵庫県医師会医療支援チーム（第19陣）「宮城県災害支援現地報告」

西宮市医師会 勝部 芳樹

仙台空港の利用でアクセスが良くなったため現地へ短時間で到着できるようになり、前陣の先生方から詳細な申し送りを受けることができた。4月28日は震災からちょうど四十九日にあたり、各地で法要が営まれていた。石巻市も着実に復興に向かっており、各学校も授業再開が計画されている。それに伴い学校の避難所は縮小、閉鎖の方向で検討されており、収容人数も徐々に減少の方向にある。避難所での診療業務に関しては、生活習慣病などの慢性疾患の管理が中心であり、救急搬送を要するケースはなかった。発熱、咳などの感冒様症状も散見する程度であり、これは各エリアとも同様であった。我々の担当した時期はゴールデンウィーク開始にあたっており、各地からのボランティアの急増が予想されていた。日赤ミーティングでは、ボランティアが持ち込んでくる感染症（特に麻疹）の感染拡大が懸念されていた。市内医療機関も徐々に診療を開始しているが、中でも甚大な被害を被った石巻市立病院が一部外来診療を再開するという、心強いニュースを聞くことができた。医療援助の必要性が徐々に減りつつあることと対照的に、今後は被災者の方々に対する精神的ケアの重要性が高まってくると考えられる。エリア4におけるミーティングにおいても、娯楽イベントの企画や、子供の遊戯スペースの設置、被災者に対するマッサージ、足浴などのサービスを提供する方策がないものか、新潟県や岐阜県からのチームと熱い議論がなされた。避難所縮小に向かっていく中、行政の協力がなければ難しいことではあるが、なんとか実現の方向に持っていければと、19陣一同切望している。

